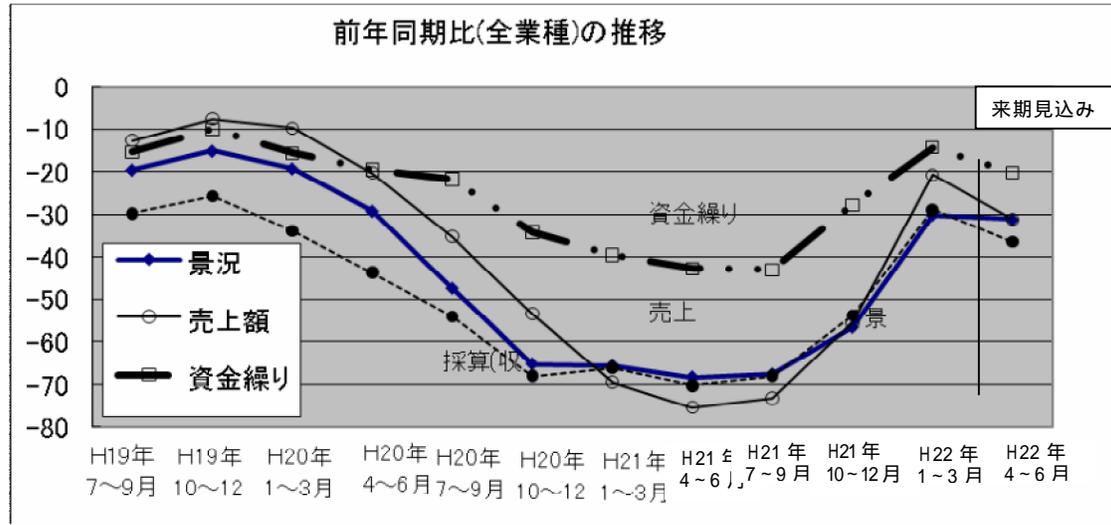


岡崎市内景況調査結果 (平成22年1～3月期分)

- ・岡崎市内の今期(平成22年1～3月)の景況判断DIは、製造業の回復が牽引して、30.1ポイントとなり、前期に引き続きプラスにポイントが増えており、回復を実感している企業が多いことが分かった。
- ・一方、来期(平成22年4～6月)の先行き見通しについては、1.1ポイント減の31.2ポイントで、売上、資金繰り、採算(収益)もすべて減少しており、これまでの回復傾向が落ち着くとみている。



1. 調査対象

- (1)対象企業数 本所各部会役員・幹事事業所 466企業
 (2)回答企業数 有効回答 173企業(回答率37.1%)

2. 調査対象時期

- 平成22年1～3月期
 (1)前年同期(平成21年1～3月)と比べた今期の状況
 (2)今期と比べた来期(平成22年4～6月)の先行き見通し

3. 調査時点

平成22年4月5日～平成22年4月9日

4. 調査方法

ファクシミリによるアンケート方式

5. 有効回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比
製造業	51	29.4%
建設業	41	23.6%
小売・卸売業	44	25.3%
サービス業	37	21.7%
合計	173	100.0%

6. その他

本報告書中のDIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、 $30 - 20 = 10$ となる。
 また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

市内の景況全体の概要

岡崎市内の今期(平成22年1~3月)の景況判断DIは、30.1ポイントとなり、前期に引き続きプラスにポイントが増えており、回復を実感している企業が多いことが分かった。また、売上・資金繰り・採算も全てプラス幅が増加した。

業種別では、自動車の増産の影響により前期に引き続き前年同期比が51.8増の11.8ポイントとなり、27ヶ月ぶりにプラスに好転した。建設業では12.3ポイント、小売・卸売業10.8ポイント、サービス業24.9ポイントと全て増加に転じた。

一方、来期(平成22年4~6月)の先行き見通しについては、1.1ポイント減の31.2ポイントで、売上、資金繰り、採算(収益)もすべて減少しており、回復傾向が落ち着くとみている。

全業種において現状の経営課題では、1位~3位が「需要の停滞」「販売価格の低下」「競争の激化」を挙げていた。需要の減少により顧客獲得のための、低価格競争が激化しており、デフレスパイラルの実態が明らかとなった。

【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H21.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.4-6月期)
景況	56.7	26.6	30.1	1.1	31.2
売上額	55.6	34.8	20.8	10.4	31.2
資金繰り	27.8	13.4	14.4	5.8	20.2
採算(収益)	53.9	25.0	28.9	7.5	36.4

売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

業種別の概要

(1) 製造業

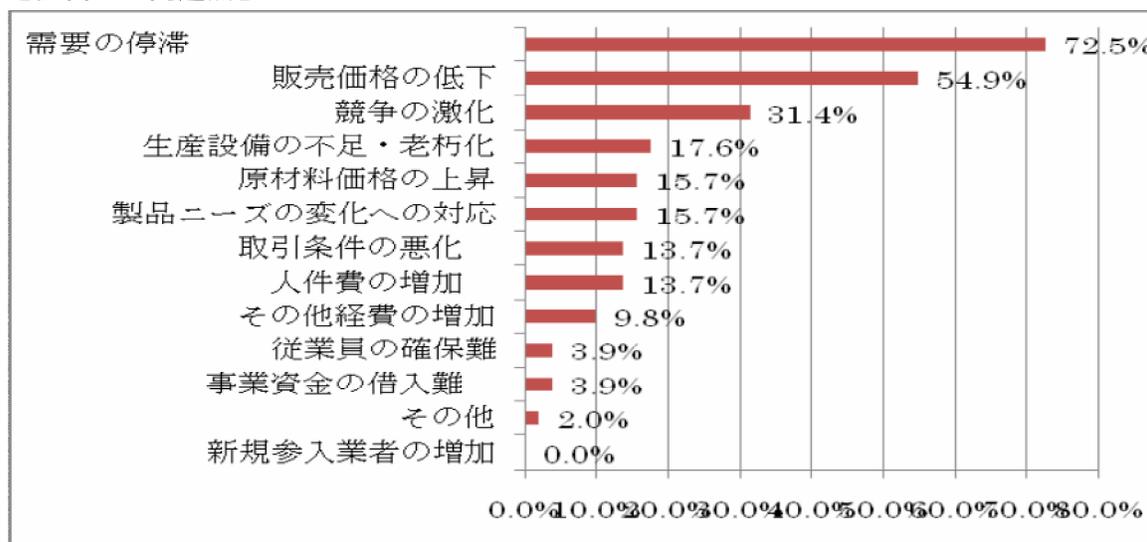
景況DIは、前年同期比が51.8増の11.8ポイントとなり、27ヶ月ぶりにプラスに好転した。また売上額も好転したことから、資金繰り・収益も改善した。エコカー減税や新車購入補助金などの政策効果により、生産台数が伸びたと予想される。

来期については、景況DIは19.8ポイント減の8.0となっており、エコカー減税や新車購入補助金の政策効果が一巡したことや、アメリカに端を発したりコール問題への対応に対する先行き不透明感の表れと考えられる。

【データ：製造業】

	前年同期比(前期) (H21.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H21.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.4-6月期)
景況	40.0	51.8	11.8	19.8	8.0
売上額	46.0	79.3	33.3	41.3	8.0
原材料仕入価格	14.0	27.7	13.7	13.8	27.5
製品在庫	30.0	12.0	18.0	4.0	14.0
資金繰り	26.0	37.8	11.8	16.8	5.0
採算(収益)	38.0	49.8	11.8	13.8	2.0

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・先行きが見えない経営環境に不安になります(食品加工メーカー)
- ・昨年の今頃に比べれば好転しているが50～60%程度の回復で、一昨年の9月以前の状況にはほど遠い。採算ベースに乗るのは今一歩。(プラスチック製造業)
- ・印刷業界の組合でも毎年会員数が減少している(印刷業)
- ・4月以降の受注予想は下降気味。技術者の育成・社内の技能不足がさらに会社の未来を不安にさせる(金属加工業)
- ・世間では景気回復気味と言うが、私どもの業界(反毛・特紡系・作業手袋・フェルト等繊維リサイクル業)では、いまだに業界の落ち込みが大きく、回復の目処も立たず、その上生産設備の老朽化や後継ぎ問題も抱え廃業する同業者が後を絶たない。その弱小企業のために事業運営資金不足に陥る事となり、このままでは事業継続も困難になるのではと心配される。(繊維業)
- ・工場稼働率とともに売上高がリーマンショック前の水準で8割戻らないと、本当の意味で「回復」とは言えないと考えます。

(2)建設業

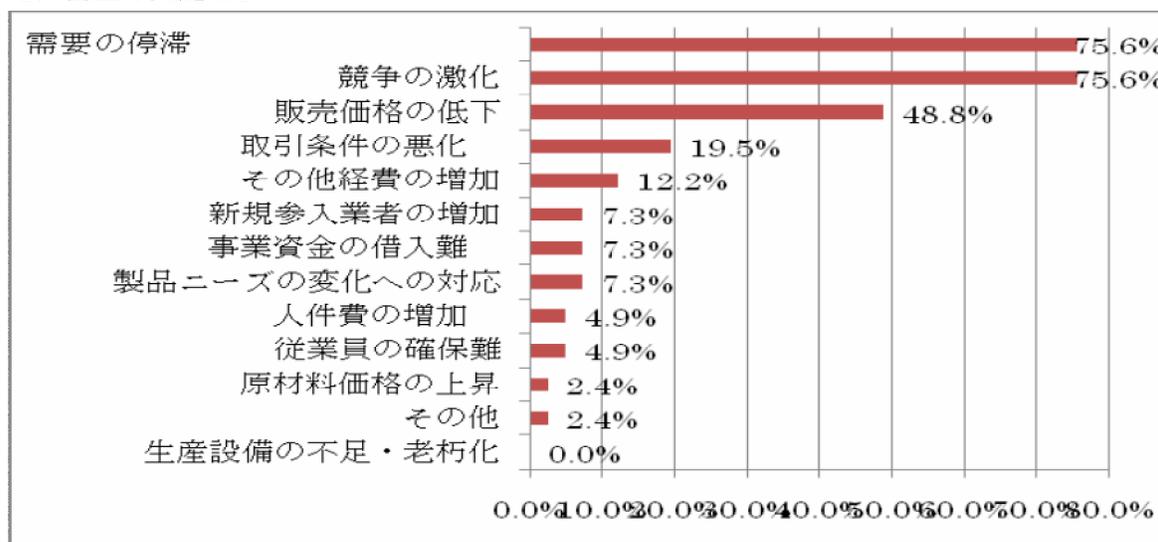
完成工事(請負工事)額が13.5ポイント上昇し、受注(新規契約工事)額も3.5ポイントと微増したため、採算(収益)も幾分改善され、景況DIは12.3ポイント増と大きく好転した。

来期については、完成工事額、新規契約は厳しくなるとの見方から、全ての項目でマイナス幅を増やしており、景況も4.8ポイント減の53.7ポイントであった。

【データ：建設業】

	前年同期比(前期) (H21.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H21.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.4-6月期)
景況	70.8	12.3	58.5	4.8	53.7
完成工事額	66.0	13.5	52.5	5.0	57.5
受注額(新規契約)	66.0	3.5	62.5	5.0	57.5
資材仕入価格	2.2	0.3	2.5	7.5	10.0
資金繰り	35.4	1.3	34.1	18.8	4.8
採算(収益)	68.8	15.1	53.7	2.5	51.2

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・地元発注工事は地元業者と契約(発注)できるような配慮を願いたい
- ・良い会社と悪い会社の格差はまだ広がり続けているように思う
- ・官公庁発注工事の減少により発注額の減少で大変苦慮しています
- ・4月に大口受注あり今期に期待している。業界全体には相変わらず厳しい状態が続いている。

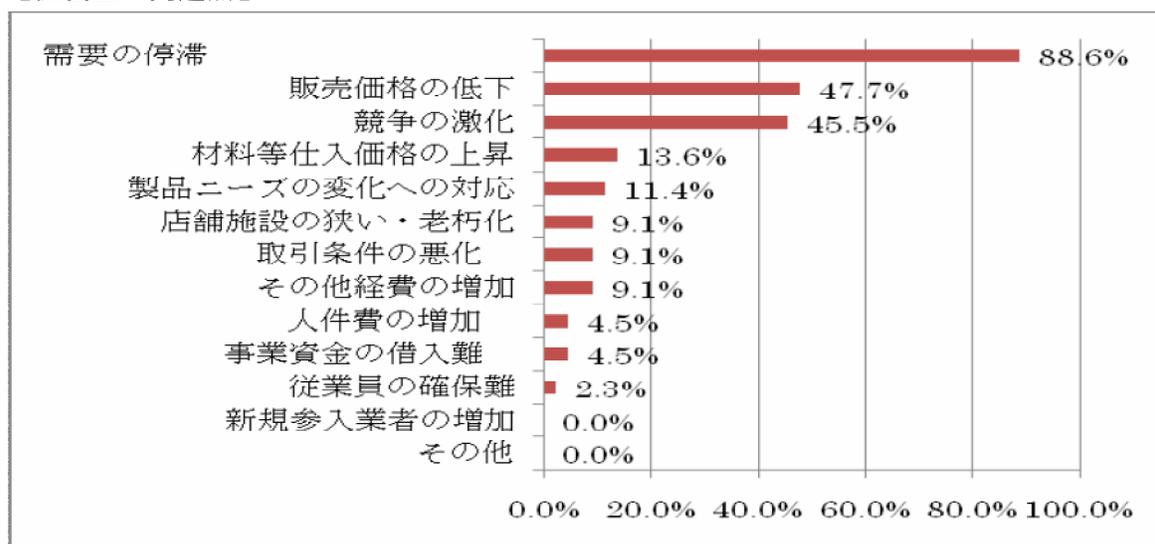
(3)小売・卸売業

商品仕入価格は28.1と大きく値上げしたが、売上が向上し、在庫数も減少していることから採算も引き続き上昇し、景況DIも10.8ポイント増、47.7だった。来期についても、売上額、採算(収益)もポイント増となっており、景況も引き続き改善が期待されるとみている。

【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H21.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H21.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.4-6月期)
景況	58.5	10.8	47.7	13.6	34.1
売上額	58.5	8.5	50.0	2.3	47.7
商品仕入価格	12.2	28.1	15.9	20.4	4.5
商品在庫	12.2	19.6	31.8	8.5	23.3
資金繰り	22.0	0.7	22.7	4.5	18.2
採算(収益)	63.4	11.1	52.3	9.1	43.2

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・県外から安売り商品が出回るため売上が減少している
- ・他社との競争激化、消費者の低価格指向が強い。先が見えないと、思い切って動けない(設備投資など)
- ・客単価の低下
- ・デフレ状況下での店頭販売価格がメーカー利潤率の低下。
- ・業務インテリア業界においてまだまだ景気が上向いてこない中、前期実績を維持している。

(4) サービス業

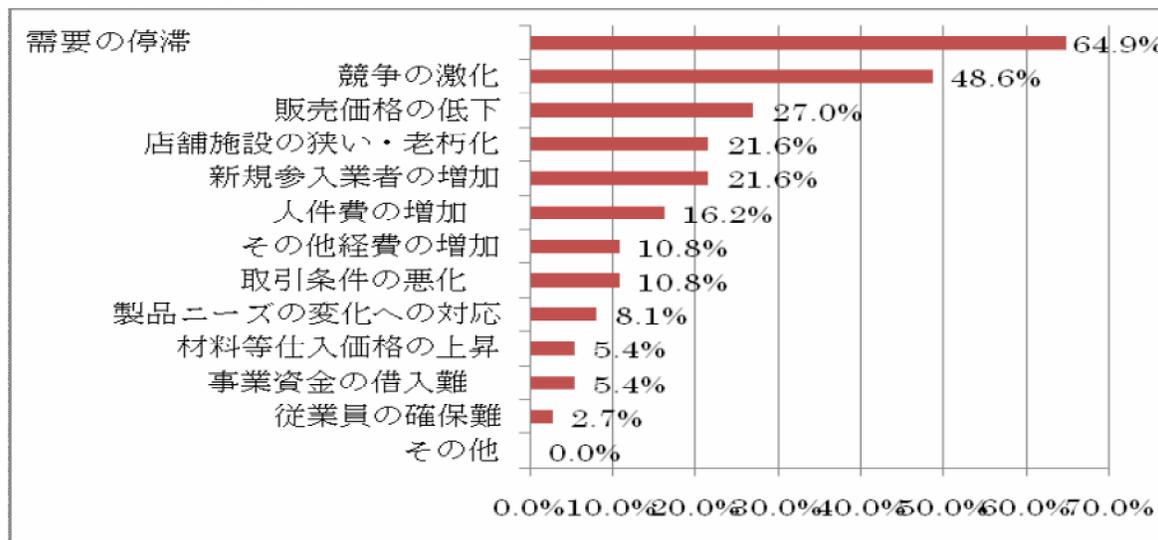
前期に引き続き、全ての項目が増加しており、売上額、利用客数、採算の各項目で大きくポイント増となっており、景況D Iも前期と比べ24.9ポイント増の35.1と大きく好転した。

来期の見通しは、一転して全ての項目で減少に転じており、景気回復がひと段落するとみている企業が多いことが分かった。

【データ：サービス業】

	前年同期比(前期) (H21.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H21.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.4-6月期)
景況	60.0	24.9	35.1	3.1	38.2
売上額	55.0	28.0	27.0	1.6	28.6
利用客数	55.0	24.4	30.6	1.2	29.4
資金繰り	27.5	8.6	18.9	15.4	34.3
採算(収益)	47.5	17.8	29.7	8.5	38.2

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・物流業界は、トヨタ、三菱生産の如何により部品輸送動向が変わる。他との競争には品質第一安全をモットーに実施。(輸送業)
- ・当社の売上増加は昨年より従業員が確保でき車両の稼働率が上がったため、不景気になると従業員が確保できます(タクシー業)
- ・規制強化による営業車両の減車(タクシー業)
- ・じわじわと販売価格の下落は続く予想。高校の意向を無視した営業活動が広がる心配(自動車学校)
- ・当社設立以来30年以來の取引業者が廃業しました(住宅販売)
- ・トヨタのリコール問題の影響と車の減税終了が心配(運送業)